

教育文化常任委員会

委員長 伊藤裕一 副委員長 高嶋基樹
委員 杉森弘之 藤田尚美 甲斐徳之助 大森和夫 水梨伸晃

おくの義務教育学校施設 一体型建設事業について



2020年4月 おくの義務教育学校開校
(旧奥野小と旧牛久二中)

特 徴

- 小規模特認校
 - ・校区は牛久市内全域
 - ・特色ある教育カリキュラム
- ユネスコスクール認定校
 - ・平和や国際的な連携を実践
 - ・SDGsの取り組み

※完成イメージ

一体型建設事業とは？

現在の北校舎（旧奥野小）と南校舎（旧牛久二中）の建物等を、一体型施設として整備する。

南校舎の敷地に校舎をまとめ、1年生から9年生が一緒に学ぶことができる環境へ。令和7年完成予定

計画の目標

- ・ こどもたちの9年間の成長を支える学習環境を整える
- ・ 低学年から高学年まで幅広い学年を受け入れる場所をつくる
- ・ 地域と共にある学校づくりとして、学校と地域とが関わりを持てる場所を計画する



校舎の特徴

- ・ 教室からの眺望の変化で9年間の成長を実感できる環境
- ・ 図書館を学校の中心に配置しアクティブラーニングを支える
- ・ インクルーシブデザイン
- ・ 昇降口の近くにエレベーターを設置、多機能トイレを各階適所に配置などバリアフリー動線の確保
- ・ 地域活動にも使える諸室（多目的室や地域活動室）を配置

工事について

- ・ 工事計画：（令和3年度）基本設計業務（令和4年度）実施設計業務（令和5・6年度）工事
- ・ 既存校舎を最大限に有効活用するため、既存校舎については長寿命化改修を実施
- ・ 統合により不足する分については新增築を実施
- ・ 工期の確保やコスト削減のため仮校舎を建設しない



定例会での動き①

(令和5年第1回定例会より)

総事業費 約38億7,000万円

工事内容と費用

(単位：千円)

工事名	金額	工事年度	積算額
浄化槽新設	56,320	R5	179,190
倉庫・プール・浄化槽・駐輪場等既設工作物解体	122,870		
校舎増築	1,323,410	R5～R6	2,560,030
給食室増築	154,440		
校舎長寿命化改修	864,930		
校舎周り外構・芝生広場	217,250		
体育館武道場改修	619,080		
児童クラブ	129,250	R6	1,072,940
グラウンド・テニスコート改修	123,310		
ピックルーフ・自転車置場・屋根付歩廊等	132,660		
体育館・駐車場等外構・その他	68,640		

	工事費	年度割	補助額見込
R5	179,190	1,203,202	237,998
	1,024,012		
R6	1,536,018	2,608,958	637,942
	1,072,940		
合計	3,812,160	3,812,160	875,940

	工事監理業務委託	年度割
R5	58,190	17,457
R6		40,733

その他 基本・実施設計費 92,000千円

出典元：学校教育課作成資料

(令和5年3月20日時点概算額)

(予算常任委員会の執行部答弁)

議会の
動き

この内容に対し、附帯決議を提出

※次ページに決議案の内容

定例会での動き②

(令和5年第1回定例会より)

附帯決議（決議案第2号）の内容について

おくの義務教育学校の施設整備にあたり、将来にわたって市の財政負担になることのないよう、予算の執行にあたり、以下の事項を求めるもの。

- ①経費の削減や事業実施時期についての検討
- ②地域の核となる開かれた学校として、市民活動に資する利用ができるような運用体制の構築
- ③旧奥野小の利活用については、地域住民等から意見を聞き、奥野地区に求められる機能を整備し、進捗状況の報告、情報共有を図ること

賛成討論

おくの義務教育学校にふさわしい施設整備を行うとともに今後厳しい財政状況の中、将来に渡って、市の財政負担になることのないようにすべきである。

反対討論

最小の経費で最大の効果を目指すことは、行政組織として当然である。

物価高騰の折、総事業費38億円は事業内容相当である。

特色ある教育を推進し、奥野地区の地域振興に繋げるため計画通り進めるべき。



(令和5年第3回臨時会より)

工事請負契約の締結に係る議決

議案第53号 工期 | 建設工事

1,796,300千円

議案第54号 工期 | 電気設備工事

363,000千円

議案第53号 工期 | 機械設備工事

382,800千円



(イメージ 写真AC)



令和5年10月より増築部分の工事を開始予定。令和6年6月内装工事まで終了

※工期は現時点での予定であり変更の可能性があります。

令和6年夏休み明け
児童及び生徒は、増築した校舎を使用

令和6年夏休み以降、
既存校舎の長寿命化改修



図面出典：学校教育課「市民説明会資料」



令和5年10月

令和6年6月以降

増築部分工事

既存校舎長寿命化改修
増築校舎を利用

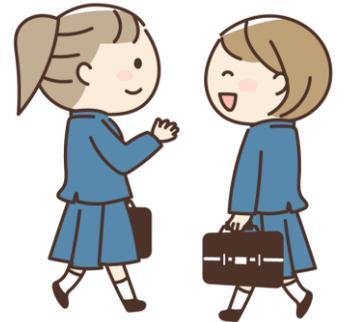
令和7年
完成

質問 コストを抑えるための努力は？

- ・ 実施設計の内容について、建築士資格を有する職員が何度も精査を行っている
- ・ フローリングや羽目板などの内装材について、特注品ではなく、メーカーの標準品から選定をして設計
- ・ 教室や廊下など、使い分けをせず、なるべく広い範囲で使えるようにした

質問 今後の児童生徒数を予測し、規模を縮小しては？

- ・ 小規模特認校として、今後も市内全域から児童生徒を募集
各学年2クラスを目途に計画しているため、現在の設計が必要



質問 材料費の高騰などがある中、今実施する理由は？

- ・ 義務教育学校設立から6年以内（令和7年度末）に完成することで有利な国庫補助率が適用される
- ・ 児童生徒のより良い教育現場であることを最優先に考えた結果

これまでの議会
において多くの
議員から質問
された内容

質問 北校舎（旧奥野小）の跡地利用について

他自治体の事例なども調査・研究し、この地域に求められる機能を検証し、地域の意見を踏まえながら、庁内に検討委員会を設け、検討を進めていく。